

“2025 年お正月特講”に参加して 人との温かい繋がり実感 これからの人生が楽しみ



三重県から参加の R.O さん（19 歳・学生）

特講を通して人の温かさに触れ、最後は帰りたくないと感じ続けるほど思い出に残る 1 週間となりました。就職活動が始まった事もあり、自身の成長の為にも、何か得られる事があればと思い参加を決意しました。

いざ始めると考える事に一生懸命で、スマホがない事は苦痛ではなく、むしろ一緒に特講を受けている仲間と沢山会話をする事が出来て楽しいと感じました。普段の生活で当たり前になってしまっている SNS や時間から一度離れ、集中が出来る環境で長い時間をかけ研鑽をする事で、こうあるべきという固定概念に縛られない大切さを知ることが出来ました。

また自分の考えに限界を感じた時でも、他の人の意見を聞いてみたり、休憩時間で笑わせてくれる皆がいた事で諦めずに考え続ける事が出来ました。今では一生忘れられない 1 週間と仲間がで、自分の本当にやりたい事も見つける事が出来ました。まだ 19 歳でこの先沢山の事があると思いますが、何かあった時は皆との特講を思い出して一度立ち止まって、自分自身と向き合いたいと思っています。皆大好きです。

京都府から参加の Y.T さん（20 歳・学生）

この 1 週間の特講を通じて、人との温かい繋がりや日常生活の小さな喜びの重要性を深く実感しました。普段見過ごしがちな些細な瞬間が、実は私たちの生活を豊かにする大切な要素であることに気づかされました。

初対面の人々とのコミュニケーションを重ねる中で、まるで古い友人のように親しみを感じることができました。言葉を交わすことで、相手の感情や考えを理解し、自分自身の気持ちを整理する助けにもなり、心を開いて話すことで、深い

今年のお正月特講は 12 月 28 日～1 月 4 日、春日山実顕地を会場に開催されました。全国から集まった 12 名（男性 6 名・女性 6 名）の参加者と係団 5 名が寝食を共にしての研鑽生活。自分をじっくり見つめ考え、意見を出し聴き合い、仲良しの社会の 1 週間を体験。その感想文が届いたので紹介します。

繋がりが生まれました。

さらに、携帯電話のない生活を経験し、周囲の環境や人々との関わりに意識を向けることができました。食事の時には皆との時間を楽しみ、入浴では身体の疲れを癒す貴重な時間を過ごせました。このような時間が、日常の中でどれほど価値のあるものか気づくことができました。

これからは、日常の小さな幸せや人との繋がりをより大切に、忙しさに流されず静かな時間や会話を楽しむことを心がけたいと思います。

この特講は私に新たな視点と深い感謝の気持ちを与えてくれた貴重な時間であり、その気持ちを忘れずに、日々を大切に過ごしていきたいです。

埼玉県から参加の T.Y さん（20 歳・学生）

特講同期の皆さん楽しくやっていますか？ 特講を受けてから、あっという間に毎日が過ぎ去っています。ただ、特講にいつから毎日の生活で変化を感じることが 2 つあります。

1 つ目の変化は、特講から帰って、自分の周りが明るく見え、何でも新鮮に感じるようになりました。

2 つ目の変化は、自分と他の人の行動を振り返る機会が自然と増えていることです。先入観や客観視はまだまだできていませんが、物事に対して深くみるが増えています。

話は変わりますが、メッセージを様々な方々からいただいて、嬉しかったです。繋がりの温かさを感じました。また、村で 1 週間充実した特講を送ることができたことも周りのおかげであり、家族のおかげでもあるとも思いました。この場をお借りして、今まで私に関わってくださった方々に感謝申し上げます。

最後に私が今後やっていくことは、研鑽を続けていくこと、ヤマギシと関わっていくこと、自分を見つめ直し今後の生き方を考えることです。皆さん、今後ともよろしくお願いいたします！

埼玉県から参加の Y.H さん（21 歳・学生）

特講を終えて改めて考えると、参加して良かったと思います。あんなに自分自身と向き合ったのは初めてでした。

普段の生活では予定に追われ、忙しさに誤魔化して自分で目を背けて考えていなかったこと・考えないようにしていた

ことを、時間をかけてゆっくりと様々な角度で考えることが出来ました。

またスマホのない生活は参加するまでは不安しかなく、想像ができませんでした。年越しや自分の誕生日などがあり、正直スマホがないということが理由で参加を躊躇っていました。しかし実際にスマホがない生活が始まると、気にならなくなりました。それよりも色んな物事を全てゆっくり楽しめることができて良かったです。スマホがないからこそ他の参加者の人達と話す機会ができ、普段よりもとても充実しているように感じました。

特講に参加したことで自分の考えの幅が広がりました。何より素敵な参加者に会えてとても良かったです。

福岡県から参加の S.T さん (24 歳・会社員)

特講は人生一度きりの参加、私は、私がこの先したいこと、自分自身の考え方について考えたいと思い参加させていただきました。最初は本当にきつかったです。体力を消耗して初日からご飯がものすごく楽しみでした。本気で自分に向き合ったことで自分の心に『本当はどうなのか』を聞くことが少しできた気がします。

また、7泊8日を一緒に過ごした仲間 11 人とは、初日には考えられないくらい、私の中でとても大きな存在になりました。携帯を使えない中感じた、ご飯の美味しさ、人の温かさ、星の明るさ、自分はこんなにも多くの人に愛されてるんだと思えた幸せをずっと忘れません。

私のために送り出しも受け入れもしてくれたみなさんと、

特講でお世話になったみなさん、共に過ごした仲間とともにこれからも前に進んでいきたいです。

私の人生で、衝撃的で感動的な 7 泊 8 日でした。最高に楽しかったです。ありがとうございました。また会いにいきます。

千葉県から参加の C.I さん (31 歳・会社員)

ヤマギシ会の特別講習研鑽会に参加し、日常では気づけなかった自分の内面と深く向き合う貴重な時間を過ごし、家族や社会との関わり方を見直す機会となりました。

特に、子どもが失敗したり問題を起こした際、以前のように感情的にならずに対応できる自分に気づき、少しですが心に余裕が生まれたことを実感しています。

また、相手の意見に素直に耳を傾け、物事を柔軟に受け入れる姿勢が身についたと感じています。この研鑽会は、単なる自己成長の場を超え、生活の基盤を築く大切な経験となりました。

京都府から参加の K.Y さん (70 歳・主婦)

特講の 1 番の思い出は、美味しい食事です。朝のラジオ体操、昼休みグラウンドでのバドミントンやサッカー、ドッチボール、ランニングなど、青空の下でおもいきり、運動できて、めちゃ気持ち良かったです。檜風呂の匂いに包まれた入浴は最高でした。就寝前の尽きないおしゃべりも、笑いが止まらなかったです。充実した 8 日間でした。

特講の内容は、私には、ついて行くにはかなり難しかった

特講の係をやってみて

特講の真価を理解できた 大きな体験 滋賀県 我時朗



まず、一番に思うのは、一生に 1 度しか受けられない『特講』というヤマギシにとって非常に大切なモノの係を、私に経験させてくれた皆さんに心より感謝致します。

この感覚が初めからあったからか、特講前日の準備研から徐々に緊張している自分に気づきました。実際に特講がはじまり 2 日目あたりから次第に、『研鑽中に自分が変なことを話して、特講生に対して変な誘導をしてしまい混乱させてしまっはいけない』という感情が芽生え、それが徐々に発言することへの恐怖に変わって自分に気づきました。

そこで、自分なりに、なぜ恐怖を感じてるのか見つけ、何の執着があるのか探っていく中で、自分の中の正しい特講のゴールをおぼろげにイメージしてしまっていることに気づき、その執着を捨てれるか確認し、捨てると決めたと同時に、研鑽中に無理に発言することをやめ、休憩中などに特講生と関わる時間を増やすことで、何か役に立てないか模索していく中で、次第に恐怖心がなくなり、普通に研鑽中も発言できるようになりました。

この 1 週間で自分の恐怖と向き合い解消した経験は非常

に大きかったです。本当に貴重な経験をありがとうございました。

また、特講の係を経験することにより特講への理解が深まり、これまで以上に人に薦めやすくなった気がします。

それぞれが持っているパワーを感じました

豊里実顕地 金子淳子



今回、春日山実顕地で開催された、お正月特講に世話係として入らせて貰いました。

今回の特講は、60・70 代各 1 名、10 代、20 代の幼年部や楽園村で育った 10 名と世話係 5 名で始まりました。

1 週間寝食を共にし、出されたテーマを考え・又考え、さらに考え、本当にみんな逃げずにどこまでも本当はどうかと考えた 1 週間だったと思います。1 人 1 人が持っている力、パワーを感じました。

日に日に表情が柔らかくなっていき、自分の事より共に暮らす仲間を気にかける事が自然になり、温かい空気に包まれていきました。

そして春日山の愛和館、お風呂、村人訪問研での特講生を迎え、受け入れてくれる大きな心に触れてみんなほっこり、素晴らしい特講だったと思います。

出発した特講生が、どんどん繋がり拡がっていくのが楽しみです。

です。しかし、何度も、何度も、why ? why ? と、自問自答する習慣が、自然と身につきました。帰宅してからも、why ? why ? と、考えてます。

今回の第 2012 回特講メンバーは 12 名で、男女比は 1 対 1 です。年齢層は、20 代から 30 代前半が 8 割以上です。いわゆる Z 世代が大半でした。Z 世代の若者の意見がきけて、たいへん勉強になりました。若者は、それぞれ自分自身のしっかりした考えをもっておられ、これなら、日本の 20 年後 30 年後の将来を担ってくれると思うと、安心しました。

また村人訪問で、私が訪問させて頂いた Y さんご夫妻も、

快く自宅にお招き頂きありがとうございました。村での暮らしぶり、人生観など垣間見れました。温かく迎えて頂き本当にその節は、ありがとうございました。

最後に、私に特講を薦めて頂いた「みどりの木」の方々に、あらためて感謝申し上げます。そして期間中、私たちのお世話をして頂いた 5 名のスタッフ、目に見えないところで、食事の支度、洗濯物、片付けなど、色々お世話していただいた方々、ありがとうございました。おかげさまで、無事 8 日間のプログラムを修了し、12 名無事に、帰宅でき、本当に感謝しています。

私から貴方へ・特講をプレゼント



息子の特講に送ってみて

京都府 S.T

前から気になっていたのが、私と悠人の会話で、悠人の思い通りにならなかったり、私が否定したりすると、ムッとしてそこで会話が途切れたり、私がそれ以上話しをしても聴かない感じだった。じつくり、深く話しをしたいのにできないから、今回は絶対に特講に行っておしよ。

前回は絶対に特講に行っておしよ。

特講から帰ってきてから、まだ少ししか話はできてないけど、以前と違って私が話したことが入ってる感じがする。これからの会話が楽しみになった。

いっぱいいっぱい、 考えて感じてくれた特講

福岡県 K.K

私が特講に参加したのは 3 年前 (?) でした。概念を覆すかのような奥深いことまで考えさせられて、最終日にはなぜか充実した 1 週間だったなって思い出します。

今回、1 年半ほど会ってなかった颯千 (さち) 姉ちゃんから、まさか自ら特講に行きたいと唐突に連絡をしてくれて、正直とても嬉しかったです。

送り出した時は、とても楽しい反面、少し不安な気持ちもあったなか、帰ってきて迎えた時は、晴々とした顔でハグをしてくれて、「とっても楽しかったんだな、沢山の出会いがあったっていっぱい考えて、自分の心に溢れてきた言葉を心で感じた日々だったのかなあ」と私までほっこりしました。

さち姉ちゃん、人生に一度の貴重な 1 週間をふとどこかで思い出し何かの糧にして、これからは幸せな人生でありますように。

自分の生き方の自問自答を楽しんでもらいたい

埼玉県 T.Y



特講の効果は個人差があります。特講の最中から、みるみるうちに変化が現れる人もいれば、何十年後かに突然、「はっ!」と気付く人、じわじわと特講でやったことが効いてくる人など様々です。今回、長男・大成が特講から帰って



きて本人の中で、どんな化学反応があったのか……、本人しか分からないし、本人にも気付かないことがあると思います。(外見は特に変化なし)

1 ヶ月前、大成から「特講に行こうと思っている」と言われたとき、私と妻は「まだまだ早い」と答えました。特講で体感することを受け入れるには 20 歳男子では「容量不足である」と客観的に (ではなく決めつけ) 思ったからです。

しかし、特講で考え、体感したことは大成の中に確実に入ったので、日々生きていくなかで大成の「核」や枝葉として育まれていくのでしょう。

不可能なことを可能にできる手段が「研鑽!」、「自分が変われば、人も世界も変わる」ということを、うわべだけで理解している私ですが、まだあきらめずに本当の幸せ、本当の生き方をたまには考えています。大成にも自分が今、この時代、この場所にいることの意義を考えて、「自分は何を成すべきか」自問自答を楽しんでもらいたいです。親の反対を押し切って、特講に行ったあなたなら、できる (^^)。

今回の特講に弟が参加しました

福岡県 S.K

弟の雅史が特講へ行きました。特講への送り出しに行ったとき、私自身も 2 年前に行った特講での学びを思い出しました。

私は研鑽について、「自分を深く見つめて、自分の本当の思いに気付いていくこと」だと思っています。この研鑽を 2 年前に行い、今の自分は、「なんでこの仕事をしているのか」や「なんで一生懸命に活動しているのか」など、自分を何度も何度も見つめ直して行動することができています。すると、自然とやる気が出て、物事が上手くいったりしています。人との関わり方も大事にするようになりました。

弟も特講にいくということで、特講で出会った仲間と語り合いながら、「本当の自分の思いについて考えてほしい」という思いで、送り出しを行いました。そして、特講で研鑽を行い、どのような考えで帰ってくるのか、凄く楽しみにしていました。

弟が帰ってきて、特講での話を聞いてみると、やはり私と同じような考えや思いをもって帰ってきました。また、私自身も改めて、仕事が上手いかなくなったときや、人間関係が分からなくなったとき、自分や周りの人と研鑽を行い、「なんで」を深く考えていきたいと思いました。



関西「特講を語る会」

新特講生と係をしたGさんの受け入れをやってみて

兵庫県 M.S

1月9日(木)の関西の「特講を語る会」は、お正月特講を受けたKさん、係をしたGさん、合わせて14名でテーマ「研讃ってどんな感じ?」でやりました。

出し合い、聞き合う中で印象に残ったのは、「暮らしはどう



1月4日9時15分から春日山楽園村会場で特講生との交流会がありました。12人の特講生、初めてヤマギシを知って来た人、楽園村時代からずっと繋がって来た人、9年間粘って来た人、親やお姉さんに勧められて来た人、特講生の後ろにはたくさんの送り出した人がいて、特講中も食事を作ったり、何かと気にかけてくれる村の人たちがいて、温かい愛情いっぱい溢れている世界が目の前に広がっていました。12人みんな、ニコニコ顔、離れがた〜いと言いながら出発しました。

でしたか?」の問いかけに「楽しかったです!」とすぐに返ってきました。

若者の参加者が多い中、いっしょにバレー、

サッカーなど楽しんだこと、いつもKさんが、輪の真ん中にいたことなど、聞かせてもらいました。年令、体力もなんにも気にすることなく、輪に入っていく柔らかさが伝わってきました。

7泊8日の暮らしを共にし、テーマで研讃してきた、その大きさは、素直に自分の思っていることを表現し、柔らかく聞く姿勢を、現してくれました。

係をしたGさんは、参加メンバーにとって一生に一回の特講、より考えていけるよう、気を配る中、緊張していく自分に気づき、自分の中を整えていった話など、真摯に取り組んだ姿勢を聞き、その豊かな世界に、胸が熱くなりました。

研讃会が進むにつれ、自分達の原点にも戻り、今やっていけることの大きさを感じ「私は研讃会が大好き」という声も飛び出しました。

特講は、研讃できる人になる第一歩。研讃できる人になるのは本当に大事。そして、研讃できる仲間と場があるのは、幸せそのもの。ほんとうに今更ですが、そう思いました。

やっぱり特講は、お勧めしていきたいです。



冬の子ども楽園村

12月26日～29日・岡部実顕地で開催

関東・岡部実顕地で5年ぶりに楽園村を開催しました。男の子8人、女の子8人の計16人で3泊4日元気いっぱい暮らしました。久々の開催ということで、始まるまで何度も話し合いや準備を重ねての開催でした。スタッフとして子ども達と意思のこめりやった3人の若者と、生活スタッフの感想を紹介します。

若者スタッフ 栃木県 M.Kさん

5年ぶりに岡部の楽園村にスタッフとして参加しました。「岡部で楽園村をやりたい!」という強い思いから始まり、開催が決まった時、事前の打ち合わせ、準備、開催期間中と



沢山の人の思いが集まって、開催できた楽園村でした。

久々の楽園村だったので、私自身もどんな気持ちで参加したいか色々考えました。以前の楽園村を活かしたいけど、「前の楽園村のように」ではなく、新しい今の楽園村として向き合いたいと思いました。

初めて参加する子ども達ばかりでしたが、一人一人を見て出し合った3泊4日でした。子ども達とスタッフと関わる人全てで、新しい楽園村ができたと思います。子ども達との関わり方や、やりどころなど、もっとやってみたいと思う所もあるので、また次に活かしたいです。

今回は自分の立場も以前と変わって、学生スタッフではなく全体を見させてもらいました。あれこれ考えるのが好きなので、この役割はとても楽しかったです(笑)

楽園村に参加していた子達が、今回スタッフになって帰ってきて、子どもと向き合う立場になる。その子達を今度は自分が全体を見ながら声をかける立場になる。そうやって繋がっていることが嬉しいです。これからも岡部の楽園村を繋げていきたいです！

その為にはみんなの気持ちを寄せて考えていくことが必要だと思うので、ぜひ一緒にやりましょう！

若者スタッフ 東京都 F.M さん

今回岡部で5年ぶりに開催した冬楽に初めてスタッフとして参加しました。

岡部で楽園村をできた事、懐かしい場所、懐かしいメンバーでスタッフをできた事、また初参加の人達とできたことが私の中で思い出になる出来事でした。

今回のスタッフをやることを渋っていたけど、結果として楽しかったしスタッフをやって良かったなと思いました。

初めての子楽のスタッフで上手く立ち回れるか、子どもには懐いてもらえるのか、周りを見れなくなる事があるのではないか、私はスタッフに向いているのか、自分が楽しむというだけでスタッフをやってよいのか、それだったら若者合宿でいいのではないのか、など色々思う事があって緊張や不安がありました。でも実際は何の心配もなく子どもには「ふーねえ」と呼んでもらえて、「遊びたい」と言ってくれて、初めて会った子でもすぐ心を開いてくれて、初参加かどうかは関係なくどんな人達とも何事もなく終われてとてもホッとしています。楽園村ってこうなんだあって、言葉にするのはすごく難しいけど今回やれて本当に楽しかったです。

いつもガキンチョしてるみんなが次はスタッフ来たいとか、もっと期間長くして欲しいって言ってくれた事が本当に楽しかったんだろうなあと考えたし、その場に居れたことが1番感動しました。

私も楽園村っ子をやってきて、スタッフになって、子どもをみて、こうやって下の子らがどんどん上がってきて、世代交代じゃないけどこうやって楽園村は繋がって続いていくんだなあと泣きそうになりました。

この楽園村がなかった5年間、コロナの事もあったけどなかなか再開できなくて、私の大好きな場所が無くなってしまっているのではないかと、とても悲しかったけど、このタイミングで条件が合い、開催してくれた人達、村の人、参加してくれた人、送り出してくれた人…。全ての人や物事に感謝したいです。私もスタッフをやれてとても嬉しかったです。

若者スタッフ 埼玉県 H.O さん

今回、5年ぶりの楽園村にスタッフとして参加してとても楽しかった。ずっと待ち望んでいた楽園村だったので嬉しかっ



た。

感染症も流行ってたりでキャンセルも出たりしたけど、楽園村中は病気や大きな怪我もなく子どもたちを送り出せたので良かった！

久々の楽園村だったし、相変わらず朝が早くて辛かったけど、頑張って起きて子どもたちとよりいっぱい遊んで楽しかった！あと、養豚に行けるとは思っていなくて行けると聞いて心の中でめっちゃ喜び、2日目の午後に子どもたちと行き、子ブタも抱っこ出来たのが嬉しかったし、最後に抱いた子ブタが私の腕の中で寝る直前まで落ち着いてくれたので最後は部屋に返したくない、このまま持って帰りたいとまで思った。

今回の楽園村で私が当初スタッフやってた時に楽園村っ子だった子が今回スタッフに入って一緒に楽園村を創っていきたくて楽しかったし、これからもどんどんそういうのが続いて、楽園村が無くなって欲しくないし無くならないように自分も続けていきたいと思った。

今回の楽園村っ子の中にもスタッフをやりたいと感想文に書いてくれていた子がいたので、それも嬉しかったしやれる年になったらやってくれたらもっと嬉しいと思った！

また春にでも楽園村やって欲しいと思うし、またスタッフもやりたい。

生活スタッフ 埼玉県 K.Y さん

楽園村開催前日、美味しいお茶を飲みながら生活スタッフメンバーの出発研。今年 50 歳の私が若手なので驚きました。みんなのように冷静に自分の状態を把握していないと思いました。

楽園村を描いて準備して下さった方々の手足になりたい。テーマでやってみました。温かい心を感じた毎日でした。

閉村式でスライドショーを見て涙が止まらなくなりました。何で涙が出るのか本当のところは、わかりませんでした。帰宅後、涙の大元は祖母の死に対して頭で納得させていた残りの感情が、私はどう思ったか？と自問すると涙として出てきたのだと思いました。

3月会員研鑽学校予定

■会員2週間研学

日程：3月2日(日)～16日(日)

会場：(決まり次第お知らせします)

費用：65,000円(税込)

■会員1週間北海道研学

日程：3月10日(月)～17日(月)

会場：別海実顕地

費用：33,000円(税込)

春の楽園村

■三重県豊里会場

3月26日(水)～29日(土)

3泊4日

対象：小中学生

■関東岡部会場

3月27日(木)～30日(日)

3泊4日

対象：小学生(定員20名)

幸福会ヤマギシ会の活動経費への「協力金」お願い

現在、会員のみなさんからの会費徴収は行っていません。会の活動・運営費用などは、心ある人の持ち寄り協力金(カンパ)で運用しています。ご協力をお願いします。

・振込口座：ゆうちょ銀行

・口座名：幸福会ヤマギシ会本部

・口座番号：00860-8-62321

研鑽合宿研 in 春日山実顕地に 参加して

2023 年 11 月から始まった 2 泊 3 日の「春日山合宿研鑽会」は、今年の 1 月開催（11 日～ 13 日）で 6 回目となりました。続けて参加している 4 名の方に感想を寄せてもらいました。

石川県から参加の S.M さん

テーマ“僕たちはどう生きるか”の合宿研鑽会、今回で 5 回目の参加です。研鑽会が終わって出発の時に、一緒に毎回参加していたさをりさんから「感想文を書いてね」と言われ、苦手だなと思いつつ。帰り道で何を書こうかと頭の中に印象に残っているのは何かなと考えてみた。

みどりさんの“ぜんざいが美味しかった”

雅代さんの“白菜のもぎ取り鎌の楽しさ”が頭の中から浮かんできた。

いつもなら“そうか”と聴くところ、“そうなんーだ”と嬉しい気持ちになった。聴きながら頭の中で愛和館、農場と画像を浮かべ、同じ所にいる自分も同じ様な気持ちがそうさせているのかなぁ。いつもなら素通りするのに不思議な“ぜんざい・白菜”がある。

帰宅して、女房から留守の 3 日間の出来事を、その意識で聴いてみるといつもと違う画像付きの温かい気持ちになった。

何かが“僕たち”になっている気がする。“聴く”とはどういう事かなぁ。また気付きを求めて、自分探しをやっていききたい。ちょっと照れくさい気持ちですが。

名古屋市から参加の H.A さん

御代の IC を降りて実顕地までの長い桜並木坂、アニメで見るタイムマシンでのワープが始まる、ポワーン！

特講で出会った本当の自分に会うために、一昨年始まった春日山合宿に、もう 5 回目の参加になりました。



●「ヤマギシ会 LINE マガジン」登録募集中

ヤマギシ会の企画、特講や研鑽学校の日程、各実顕地開催の企画や行事、各地の研鑽会など、LINE マガジンでお知らせしています。希望される方は、QR コードから登録をして下さい。



日々の生活に忙殺され、スタートしてたはずの研鑽ライフもついついの毎日。始まった頃は研鑽会の体すらおぼつかなかった合宿も、聴き合いながらの研鑽会になってきた気がします。

研鑽会は「聴き合うことから始まる無我執の世界」。僕たちで創っていききたいと思う。また、5 月に会いに来ます。元気でいろよ大幸君……。



愛媛県から参加の S.K さん

今回の合宿研は、前日に主人の足が悪くなり安静が必要と、大寒波で交通機関が大丈夫なのか？と、余り行きたいがないまま、飛行機の切符は早くから買ってるし（やめるとマイルが帰ってこない）行くしかないか？

そんな中、今までの合宿研の感想を読み返してたら、“僕たちの中の自分が見えてきた”と。今まで迷ってた気持ちがす～と晴れてきて参加した。

今回は最初からテーマを意識して始まった。

みんなの中にいる自分が心地良かった。今回、自分の癖も見えてきた。単独行動をすぐやろうとする自分、人の話を聴く時、自分の思いがすぐ出てしまう。

何を言おうとしているか？ここを意識して取り組んでいきたいと思いました。

愛知県から参加の T.K さん

春日山合宿に参加し続けて～研鑽でどんな感じ？～。

コロナ感染症が、2 類から 5 類になり、春日山実顕地での会員向けの企画が再開された。“春日山合宿！”春日山は、私には、とても思い入れのある場所で、参加しない選択はなく、速攻申し込みして 6 分の 5 参加している。

参加者は、いろんな人がいて、初めて会う強面の人、苦手な人、よく泣く人、しゃべらない人、よくしゃべる人、十人十色とは、このことでしょう。そんな、参加者にひっかかり、ひっかかれたり、研鑽会が嫌いになったり、楽しくなったり、なんだか忙しい自分です。

でも、回を重ねることで、強面の怖い顔は、にこにこ顔の世話好きおじさんに、苦手な人は、ただの人になり、話が聞けるようになったり、大好きな人は、もっと大好きになり、参加者の印象は、初回からずいぶんだいぶ変わりました。不思議ですね。何が変わったのかぁ？

前回の研鑽会のなかで、「人間は変わらないわけがない。昨日の自分と今日の自分は違う」と話ができましたが。研鑽会に参加し続けることで、みんなの中に、何か、核となる何か、温かいものが生まれてきてるように思います。変わったとかではなく、もともと持ってるものが引き出されてる感じかなぁ？研鑽会！ほんと、不思議なものです。

フルタイムで働いてると、1 週間 2 週間の研鑽学校の参加は、なかなか難しいけど。合宿に通い続けることで、楽しいだけでない研鑽会を味わってます。

参加し続けてるみなさん！これからも、私のこと見ててくださいね。これからの方！楽しいだけじゃない、もちろん楽しさいっぱいの春日山合宿でお会いしましょう。泣いたり、笑ったり、ぐちぐち言ってるけど、結構面白い、私に会いに来てください。笑笑。

ヤマギシ会では各地の活動などを「ヤマギシ会 LINE マガジン」でお知らせしています。

福岡幸福研合宿を開催

10月26日～27日の一泊二日、朝ドラで話題の福岡県糸島で福岡幸福研合宿をしました。全国から19名集まって賑やかに盛り上がった合宿でした。

・S.Nさん

初対面の人、半年振り再会の研学同期、紡いで貰った繋がり、30年振り再会となった幼年部親仲間、それぞれの歩んで来られた人生を聞かせて貰って勇気をもらい感動。脈々たる繋がりをも実感し一皮二皮剥け本当の私があらわれました。あゝ面白いです！

・S.Aさん

九州の方々と旧知の仲のような研鑽会になり、どこに行っても家族がいるようでいいですね。テーマ「どう生きるか」は、壮大なものですが、案外日常のことだったりするなど。70過ぎたら余生を楽しむなんて考えていましたが、死ぬまで現役という元気をもらいました。

・M.Nさん

初対面でもすぐにうちとけ、本当に楽しかった。テーマも、最初はたじろぎましたが、誰かの「楽しくやりたい！」の言葉に、とらわれのない新鮮な自分が蘇りました。頭(思い)と腹とは？何にでもこわごわの自分と、やっちゃん腹が座る時の自分、さて私はどう生きる？私も人との比較ではなく、謙虚な人になります。これからも素直で明るく生きて行きます。



11月2日～4日若者合宿 in 豊里

20代～60代の12人が豊里実顕地に集まり『そのまんま、出してみる。そのまんま、聞いてみる』をテーマに合宿研鑽会を行いました。

・H.Mさん

「出す」も「きく」自分の状態次第だなと思った。感情が先に出て聞けなくなったり、相手を勝手に想像して出すことをやめている部分が沢山あると感じた。日常生活でも自分の気持ちのそのまを見て出す、相手が言ったことを自分の思い込みなく聞いているか確認しながらやってみよう。

・S.Sさん

こんな風に聞いていきたい、出していきたいというイメージがいくつも生まれた3日間でした。「すべき」とか「したい」ではなく、「したい」が生まれたのは、この合宿で自分の中で浮かんだものは、そのまま出し、参加者それぞれのことをそのまま聞いてみたからだろうと思います。



・S.Cさん

テーマにそって素直にまじめに取り組み、自分と向きあう事ができた合宿研でした。若者の中で60代の私も一緒に考え気づくことのできる、とても楽しい時間でした。

やってみての一言は「未来は明るい！」という感動です。研鑽の楽しさが引き継がれていると感じられた事がとてもうれしいです。

岡部実顕地で「秋の集中研」

11月8日～10日、岡部実顕地で秋の集中研がありました。4回目の今回は関東の他に新潟、仙台からの参加もあり19名+岡部村人(随時参加)で行いました。

・T.Kさん

年末大掃除、心の押し入れにしまい込んでいたモノを一旦全部出して観てみたら、相手の生き方も自分の生き方も尊重出来て、30年詰め込んでいた心のモヤモヤが空っぽになりました。あースッキリ・・・。

これからは「私たちはどう生きるのか」の「私たち」を意識して、陽気に生きていきます♪

・K.Iさん

思いきって参加して良かった!! 楽しかった!! 久しぶりの村の空気を胸いっぱい吸いこんできた。今をどう生きるか? 「どちらでも良い」という言葉、とてもいいですね! 気持ちが前より軽くなりました。みなさんありがとう!!

・E.Kさん

「行こうかな?」の動機で出発した。名簿の中に懐かしい2名の名字…、もしかしてお母さんかも、家族の人かもしれない、会えるの楽しみ。2年前の夏の特講「幸せになって下さい」村人の言葉に泣く。そして私はシャバに戻った。

軽トラの中から村人は「幸せになって下さい」私は頭を下げ涙はなかった。2年間私は幸せだったと気付く! オロカ者め! 「わたしはわたしたちはどう生きるのか」問いなおしの出発にしたい。

豊橋の講座の仲間たち



秋晴れの気持ちいい今日(11月17日)、豊橋の講座の仲間が集まり、手作りマヨネーズのサンドイッチ&鬼まんじゅう作りをしました。

いつも講座に参加してる人や、講座には参加出来ないけど、日曜日ならオッケーの人など、合わせて大人7人子ども11人、合計18人が集まりました。

みんなでワイワイ作って食べたあとは、思いっきり遊ぶ子どもたち。「前は私の足元にまとわりついてたなぁ」隣で毎回参加してるお母さんがボロッと。1年に3、4回の遊び会。時々でも会う事で、お母さんの様子や子どもたちの成長を感じれます。

心の友を得た喜び

1961(昭和36)年春、山岸巳代蔵が岡山での研鑽会の途中、頭痛に襲われくも膜下出血で倒れ亡くなる直前に次のような発言を遺している。

“英清さんという人が、去年の秋頃か、「私はもうちょいと賢いと思っていた」と言ったが、あれから楽やったわ。”

英清さんっていったい誰? “あれから楽やった” って何のこと?

以前、北条実顕地の荒瀬崎次(1917-2016)さんから次のように聞いた。

“山岸さんから聞いた話だけど、「山本英清さんが、ワシはもっと賢い人間やと思っていたけど、なんとアホやったと、この頃わかった」といってたが、そんなふうになったら本物だ」といっておられました。私も昔は、口では自分はバカな人間だといってましたけど、本当は心の底からは…。この頃思い出して、穴があったら入りたい気持ちです。”(『前涉行程論1』1972)

手元の山岸巳代蔵年譜では、山岸会が発足した翌 1954年6月1日“山岸、和服の着流して山科の山本英清宅を訪ねる。午後一時頃から夕方六時過ぎまで話し続ける。”とある。

以前山本英清さんが会の機関紙に随時連載されていた「懷想メーポール」によると、

“日記には次のように、その話が摘記してある。

—自分の意見—

私には私自身の理想とする社会がある。しかしそれは結局夢であること。幸福について。この世の中は調和していること。宗教の重要性について。生活について。闘争ということ等。

—山岸先生の話—

○自分は宗教は否定しないが信仰はない。○私のめざす社会——物足りて争いなく、人その所において幸いなる社会。○これは夢にあらず必ず近い将来に実現する可能を信じる。○それは無血革命であること。”

等などとある。そして当時の私は宗教的な観念にこりかたまっていたのか、自分の反応に目立った変化がみえないと述懐されている。

しかしそれから 10 日過ぎのある座談会で山岸巳代蔵は語っている。

“京都の山科に山本という元学校の先生をしていた人がいるんです。世間では変人に見られているんですが、戦争中はひどいノイローゼになりましてね。私に非常に反感を持っていたのですが、最近大分判って下さいました。面白い人です。ぜひ一度お会いして下さい。”(『ヤマギシズム』1962)

ここでも“変人”“面白い人”といったフレーズが飛び

出す。しかも“最近大分判って下さいました”ともいう。

いったいどこを見ての発言なのだろう?

幸いにもこの運動が始まる前の二人が知り合った当時にふり返っている研鑽会記録がある。(「第六回理念研」1960)

“山岸 (英清さん宅に行った時分) 畳が破れ床が落ちるといった状態やったね。着物引っかけ破る便所だった。

あの時の英清さんの気持がどうだったか。心の状態がどうだったか言ってもらったら。

英清 そう言われると、細かく分析して言えんが、心にかからなんだのは事実だった。あの時分、収入ないし、子供も家内も苦情言うたりしたけど。”

“英清 ある時、客が来てる時、電灯切られて真っ暗だった。客は憤慨してたけど、子供も平気だった。ローソクで客に飯食わしてた。電灯切った時、私はむしろ愉快やった。

山岸 本当に面白いのやろと思う。その気持よく分かる。”

じつはその頃山岸巳代蔵自身も前年秋の台風で、大きな二階家屋が倒壊。自身胃下垂で何一つ作業が出来ず、税金の滞納、水害融資の元利返納など、“養鶏に失敗して止めた男、口先のみの人間”との陰口そのままの悪評と借財と病弱の日々だった。

そんな時期に出会った二人だった。

ある人には暗く見えるかも知れないが、二人が知り合ったあの希望が持てなかった当時、自分らには心の友を得た感じがしたという。

どんな事態がきても苦にならない状態に二人はあったという。

同じ事態の中で、つまらん、つまらんと言う人と、この中こそ喜び感じてやれた、得がたい体験できたと言える人がある。

それはどういう訳で二つに分かれるのだろうか。

いったいどこを見て二人は、“愉快”とか“本当に面白い”“その気持よく分かる”といっているのだろうか?

自分の観方で明るくも暗くも出来るって、何がそうさすものだろうか?

ともあれ私とあなたの二人で、そんな心の解決した世界を見出したのだった。

“凍る池 藻は青鯉の 泳ぎ居り”



(佐川清和)